

学 位 論 文 要 旨

氏 名 付 成

題 目 中国のインクルーシブ教育における巡回指導教員のコンピテンスに関する研究

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

多くの国は巡回指導制度を重要な支援制度として位置づけている。中国のインクルーシブ教育の推進においても、巡回指導教員が特別教育と通常教育のかけ橋として重要な役割を担っている。しかし、巡回指導教員の量と質の不足のため、その役割を果たすことができない状況にある。そこで、本研究は、質の高いインクルーシブ教育を実践できる巡回指導教員の育成、専門性を向上させるため、中国の巡回指導教員のコンピテンス・モデルを開発するうえで、巡回指導教員のコンピテンスの現状とその要因を明らかにするとともに、教員養成と研修を通して巡回指導教員のコンピテンス育成の現状とニーズを明らかにすることを目的とした。

本研究全体は、5章（3つの研究）構成である。第1章ではまず、中国における特別教育とインクルーシブ教育の展開、及びその流れの中で巡回指導と巡回指導教員に関する現状と課題をまとめた。次に、巡回指導と巡回指導教員についてこれまでの先行研究を整理した。その上で、本研究の研究課題と目的を提示した。

第2章では、研究1「中国における巡回指導教員のコンピテンス・モデルの開発」を行った。まず、中国の巡回指導教員の役割の特徴を明らかにするために、「巡回指導教員の役割書」を収集し、役割書の文字テキストデータをコード化し、得られたコードを意味内容の類似性に従って分類し、サブカテゴリーを抽出した。それに基づき、役割の特徴を検討した。次に、巡回指導教員のコンピテンス・モデルを開発するために、まず先行研究を概観し、巡回指導教員のコンピテンスに該当する項目を抽出した。次に、巡回指導教員を対象として、役割を果たした際の具体的な事例をインタビューし、役割の特徴を踏まえて巡回指導教員に求められるコンピテンスの構成概念（要素・項目）について明らかにした。さらに、文献やインタビューによって明らかにされたコンピテンスの要素と項目に基づき、巡回指導教員のコンピテンス・モデルを開発し、信頼性と妥当性を検証した。そして、5つのコンピテンス因子と23コンピテンス項目が含まれる巡回指導教員のコンピテンス・モデルを構築した。

第3章では、研究2「中国における巡回指導教員のコンピテンスの現状とその影響因子」を行なった。第2章で開発された巡回指導教員のコンピテンス・モデルに基づき、巡回指導教員の能力に関する自己評価尺度をもとにアンケート調査を行い、巡回指導教員が備えているコンピテンスの現状及びコンピテンスに影響を与える要因を明らかにした。その結果、巡回指導教員の総合的な能力レベルは高く、各能力因子は比較的均衡にしており、特に弱い点はないが、コンピテンス項目の中に、「ICT活用の問題解決能力」が、他のコンピテンス項目よりやや低いことがわかった。また、巡回指導教員のコンピテンスは特別学校教員や巡回指導教員としての経験年数、地域、研修経験といった要因より影響を受けることが示された。

第4章では、研究3「中国における巡回指導教員の育成教育の現状とニーズ：コンピテンスの視点から」を実施した。本章では、大学の特別教育専攻における巡回指導教員のコンピテンス育成の現状及び特別教育専攻課程の内容に対するニーズを明らかにするために、まず、大学の特別教育専攻の目標とカリキュラムを考察した。次に、第2章で開発された巡回指導教員のコンピテンス・モデルをもとに、特別教育専攻課程が巡回指導教員のコンピテンスの育成に与える影響及び特別教育専攻課程において学ぶべき内容を調査した。そこで、これまでの大学の特別教育専攻には、巡回指導教員に求められる個人的・行為的コンピテンス、価値観・倫理的コンピテンス、知識・認知的コンピテンスの育成は機能的コンピテンスとメタコンピテンシー・トランスコンピテンシーの育成をより重視していること、また将来の巡回指導教員を育成するために、養成段階より特別教育専攻において巡回指導教員に求められる各コンピテンス項目に関する内容を学び始める必要性が高く、機能的コンピテンス及びメタコンピテンシー・トランスコンピテンに関する課程をより充実させる必要があることが示唆された。

また、中国の巡回指導教員に対する研修の現状、研修のニーズ及びそのニーズの関連因子を明らかにするために、第2章で開発された巡回指導教員のコンピテンス・モデルに基づき、巡回指導教員が教員研修に対する意識に関するアンケートを行なった。その結果、中国の巡回指導教員に対して、知識・認知的コンピテンスと機能的コンピテンスに関する研修はまだ不十分であること、知識・認知的コンピテンスと機能的コンピテンスに関する研修へのニーズは、他の3つのコンピテンス因子に関する研修へのニーズよりやや高いこと、巡回指導教員の職級、地域、勤務年数、支援対象の障害種別数、役割数など異なる属性に基づき、研修の開発が必要であることが示唆された。

第5章は、第2章から第4章までの研究成果を整理するとともに、本研究成果の応用、限界及び今後の課題を提示した。本研究の成果の応用について、個人の専門性向上、巡回指導教員の評価、巡回指導教員の育成という3つの側面から議論した。本研究の限界と今後の課題について、サンプルの抽出方法や調査方法の改善、巡回指導教員のスキルラダーの開発という3つの点から論じた。